

ハウス長休かわら版 創刊号 1974.8.31.

毎集稿度刊 編集人 末吉平克

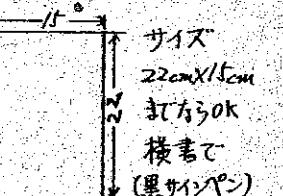
スカウトの1年間のプロクラムが終りホッと一息つかれたようですね、元気でお過してしょうか。また新しいメンバーでより一層の活動を計画しようとハリキッテおられることでしょう。前年度の反省を生かせる特權はあなた自身にあるのですから。

さて、このたび、“ハウス長休かわら版”なるものを発刊する運びとなりました。これはハウス長休ならびに広場を利用する4組、38組をはじめとするすべての人々に対し、つまり、スカウトから育成会員、その家族、地区の人達に対しての、また人々自身の敵面というべき機關紙というか広報紙というか、つまりは“かわら版”なのです。言いたいこと、訴えたいこと、連絡したいこと、呼びかけたいことなど、またスカウティング誌からの記事などスカウトに関する注意すべき記事、うれしい記事などを記載する。みんなが読んでおもしろいものは大歓迎、飛び人末吉平克が、当面編集人として働きますので、記事をトシドシ当方へお寄せ下さい。

▷寄稿の方法

刊行のスピード化をはかりたい為、右に示すサイズ

内に、記事など白い紙に黒で書かれたものや印刷されたものならなんでも可こうです。原稿そのまま印刷します。



サイズ
220mm x 15cm
20行
横書き
(黒インク)

京都から帰ってきた中村三之助38BS隊長は今後の活躍を期待

日本ボイスカウト京都第三八
北区鞍馬口通丸東入ル 京都産
大生川は、アメリカBS連盟主催
の国際キャンプスタッフ計画に参
加することになり、二十八日、京
都を出発する。

中村君は、八木清日本BS京都
連盟監理長に村木泰介、二十四
日後、渡米あいさつのため京都
新聞社を訪れたが、同君は「高齢
の方で、わが國からは十五人が加
わる。京都からは中村君が参加、二二一
月一日に東京空港発、二二二、二二三
月一日に着いたあと、オハイオ州の
キャンプで四十日間過ごして、この
あと約千日間、国内研修旅行し
て八月末に帰国の予定。

中村君は、八木清日本BS京都
連盟監理長に村木泰介、二十四
日後、渡米あいさつのため京都
新聞社を訪れたが、同君は「高齢
の方で、わが國からは十五人が加
わる。京都からは中村君が参加、二二一
月一日に着いたあと、オハイオ州の
キャンプで四十日間過ごして、この
あと約千日間、国内研修旅行し
て八月末に帰国の予定。

2ヶ月間にわたるアメリカ生活で、かなりアメリカ産ウルシカアレがひどいようです。みんなで早くなおしてあげよう。

君も海外へ行けるチャンスがあるのだ！
それには何んといっても1級スカウトで
なくてはダメなのだ。カコバレ～!!

上の記事は6月25日京都新聞朝刊より

ボーイスカウト訓練の批判にこたえて

スカウティング誌7月号'74より

(カコミ記事は読売新聞・5月9日付夕刊所載)

電車の中でのカブスカウト（小学校3年～5年）の態度から、即ボーイスカウトの指導精神や訓育方法までが厳しく論評されたことは、一端を見て全般をうかがうに似て、いささか飛躍に過ぎる嫌いがある。しかし、われわれボーイスカウト運動に携わる者は、こうした論評もまた率直に謙虚に受けとめ自らの訓育の在り方を反省したい。小雅曰く「他山之石可攻玉」と。家庭・学校・社会と相互補完教育の道の遠きを嘆ぐのみ。

しかし、せっかくの青少年団体の教育や訓練が、その場限りの「しつけごっこ」に終わっているのはなぜか。戦後、学校と家庭を支配した過保護と甘やかしの風潮に青少年団体も埋没してしまったからだろう。たゞ、しつけの機能を失つた家庭がふえるにしたがつて青少年団体が果たすべき役割が大きい。文部省の社会教育振興会が最近「在学青少年に対する社会教育のあり方」の建議を立派に提出したもの、こうした認識によるものである。

しかし、せっかくの青少年団体の教育や訓練が、その場限りの「しつけごっこ」に終わっているのはなぜか。戦後、学校と家庭を支

持する社会の期待は大きい。知育偏重の学校



かで制服を着たボーイ

スカウトの少年たちをよく見かける。野球帽に似た帽子をかぶつていて、わが子が常に煙を吸いつつ見るところをみると力

スカウト（年少隊員）の仲間たちである。「これが、この少年諸君は遠足に出かける小学生たちと同じように行儀が悪い。先を歩みまつに乗車してきて、わが子が常に煙を吸いつつでも、席を譲るなどどこかおしゃべり入るのよ」といふ感じらしい。

そこで、この少年たちは目的に適切な遊びの訓練を受けて、ボーイスカウトの尊厳として、奉仕の精神を身につけるように教

育されるはずである。試みにボーイスカウトの隊員のパンフを開いてみたら「スカウトの三のちかい」の第二には「いつも他の人々を助けます」とあった。また「十二の

お守り」には「スカウトは礼儀正しい」「ス

カウトは親切である」の項目もある。

しかし、せっかくの青少年団体の教育や訓練が、その場限りの「しつけごっこ」に終わっているのはなぜか。戦後、学校と家庭を支

持する社会の期待は大きい。知育偏重の学校

かで制服を着たボーイ

スカウト（年少隊員）の仲間たちをよく見かける。野球帽に似た帽子をかぶつていて、わが子が常に煙を吸いつつ見るところをみると力

スカウト（年少隊員）の仲間たちである。「これが、この少年諸君は遠足に出かける

小学生たちと同じように行儀が悪い。先を歩みまつに乗車してきて、わが子が常に煙を吸いつつでも、席を譲るなどどこかおしゃべり入るのよ」といふ感じらしい。

そこで、この少年たちは目的に適切な遊びの訓練を受けて、ボーイスカウトの尊厳として、奉仕の精神を身につけるように教

育されるはずである。試みにボーイスカウトの隊員のパンフを開いてみたら「スカウトの三のちかい」の第二には「いつも他の人々を助けます」とあった。また「十二の

お守り」には「スカウトは礼儀正しい」「ス

カウトは親切である」の項目もある。

しかし、せっかくの青少年団体の教育や訓練が、その場限りの「しつけごっこ」に終わっているのはなぜか。戦後、学校と家庭を支

持する社会の期待は大きい。知育偏重の学校

かで制服を着たボーイ

スカウト（年少隊員）の仲間たちをよく見かける。野球帽に似た帽子をかぶつていて、わが子が常に煙を吸いつつ見るところをみると力

スカウト（年少隊員）の仲間たちである。「これが、この少年諸君は遠足に出かける

小学生たちと同じように行儀が悪い。先を歩みまつに乗車してきて、わが子が常に煙を吸いつつでも、席を譲るなどどこかおしゃべり入るのよ」といふ感じらしい。

そこで、この少年たちは目的に適切な遊びの訓練を受けて、ボーイスカウトの尊厳として、奉仕の精神を身につけるように教

育されるはずである。試みにボーイスカウトの隊員のパンフを開いてみたら「スカウトの三のちかい」の第二には「いつも他の人々を助けます」とあった。また「十二の

お守り」には「スカウトは礼儀正しい」「ス

カウトは親切である」の項目もある。

しかし、せっかくの青少年団体の教育や訓練が、その場限りの「しつけごっこ」に終わっているのはなぜか。戦後、学校と家庭を支

持する社会の期待は大きい。知育偏重の学校

かで制服を着たボーイ

スカウト（年少隊員）の仲間たちをよく見かける。野球帽に似た帽子をかぶつていて、わが子が常に煙を吸いつつ見るところをみると力

スカウト（年少隊員）の仲間たちである。「これが、この少年諸君は遠足に出かける

小学生たちと同じように行儀が悪い。先を歩みまつに乗車してきて、わが子が常に煙を吸いつつでも、席を譲るなどどこかおしゃべり入るのよ」といふ感じらしい。

そこで、この少年たちは目的に適切な遊びの訓練を受けて、ボーイスカウトの尊厳として、奉仕の精神を身につけるように教

育されるはずである。試みにボーイスカウトの隊員のパンフを開いてみたら「スカウトの三のちかい」の第二には「いつも他の人々を助けます」とあった。また「十二の

お守り」には「スカウトは礼儀正しい」「ス

カウトは親切である」の項目もある。

しかし、せっかくの青少年団体の教育や訓練が、その場限りの「しつけごっこ」に終わっているのはなぜか。戦後、学校と家庭を支

持する社会の期待は大きい。知育偏重の学校

かで制服を着たボーイ

スカウト（年少隊員）の仲間たちをよく見かける。野球帽に似た帽子をかぶつていて、わが子が常に煙を吸いつつ見るところをみると力

スカウト（年少隊員）の仲間たちである。「これが、この少年諸君は遠足に出かける

小学生たちと同じように行儀が悪い。先を歩みまつに乗車してきて、わが子が常に煙を吸いつつでも、席を譲るなどどこかおしゃべり入るのよ」といふ感じらしい。

そこで、この少年たちは目的に適切な遊びの訓練を受けて、ボーイスカウトの尊厳として、奉仕の精神を身につけるように教

育されるはずである。試みにボーイスカウトの隊員のパンフを開いてみたら「スカウトの三のちかい」の第二には「いつも他の人々を助けます」とあった。また「十二の

お守り」には「スカウトは礼儀正しい」「ス

カウトは親切である」の項目もある。

しかし、せっかくの青少年団体の教育や訓練が、その場限りの「しつけごっこ」に終わっているのはなぜか。戦後、学校と家庭を支

持する社会の期待は大きい。知育偏重の学校

かで制服を着たボーイ

スカウト（年少隊員）の仲間たちをよく見かける。野球帽に似た帽子をかぶつていて、わが子が常に煙を吸いつつ見るところをみると力

スカウト（年少隊員）の仲間たちである。「これが、この少年諸君は遠足に出かける

小学生たちと同じように行儀が悪い。先を歩みまつに乗車してきて、わが子が常に煙を吸いつつでも、席を譲るなどどこかおしゃべり入るのよ」といふ感じらしい。

そこで、この少年たちは目的に適切な遊びの訓練を受けて、ボーイスカウトの尊厳として、奉仕の精神を身につけるように教

育されるはずである。試みにボーイスカウトの隊員のパンフを開いてみたら「スカウトの三のちかい」の第二には「いつも他の人々を助けます」とあった。また「十二の

お守り」には「スカウトは礼儀正しい」「ス

カウトは親切である」の項目もある。

しかし、せっかくの青少年団体の教育や訓練が、その場限りの「しつけごっこ」に終わっているのはなぜか。戦後、学校と家庭を支

持する社会の期待は大きい。知育偏重の学校

かで制服を着たボーイ

スカウト（年少隊員）の仲間たちをよく見かける。野球帽に似た帽子をかぶつていて、わが子が常に煙を吸いつつ見るところをみると力

スカウト（年少隊員）の仲間たちである。「これが、この少年諸君は遠足に出かける

小学生たちと同じように行儀が悪い。先を歩みまつに乗車してきて、わが子が常に煙を吸いつつでも、席を譲るなどどこかおしゃべり入るのよ」といふ感じらしい。

そこで、この少年たちは目的に適切な遊びの訓練を受けて、ボーイスカウトの尊厳として、奉仕の精神を身につけるように教

育されるはずである。試みにボーイスカウトの隊員のパンフを開いてみたら「スカウトの三のちかい」の第二には「いつも他の人々を助けます」とあった。また「十二の

お守り」には「スカウトは礼儀正しい」「ス

カウトは親切である」の項目もある。

しかし、せっかくの青少年団体の教育や訓練が、その場限りの「しつけごっこ」に終わっているのはなぜか。戦後、学校と家庭を支

持する社会の期待は大きい。知育偏重の学校

かで制服を着たボーイ

スカウト（年少隊員）の仲間たちをよく見かける。野球帽に似た帽子をかぶつていて、わが子が常に煙を吸いつつ見るところをみると力

スカウト（年少隊員）の仲間たちである。「これが、この少年諸君は遠足に出かける

小学生たちと同じように行儀が悪い。先を歩みまつに乗車してきて、わが子が常に煙を吸いつつでも、席を譲るなどどこかおしゃべり入るのよ」といふ感じらしい。

そこで、この少年たちは目的に適切な遊びの訓練を受けて、ボーイスカウトの尊厳として、奉仕の精神を身につけるように教

育されるはずである。試みにボーイスカウトの隊員のパンフを開いてみたら「スカウトの三のちかい」の第二には「いつも他の人々を助けます」とあった。また「十二の

お守り」には「スカウトは礼儀正しい」「ス

カウトは親切である」の項目もある。

しかし、せっかくの青少年団体の教育や訓練が、その場限りの「しつけごっこ」に終わっているのはなぜか。戦後、学校と家庭を支

持する社会の期待は大きい。知育偏重の学校

かで制服を着たボーイ

スカウト（年少隊員）の仲間たちをよく見かける。野球帽に似た帽子をかぶつていて、わが子が常に煙を吸いつつ見るところをみると力

スカウト（年少隊員）の仲間たちである。「これが、この少年諸君は遠足に出かける

小学生たちと同じように行儀が悪い。先を歩みまつに乗車してきて、わが子が常に煙を吸いつつでも、席を譲るなどどこかおしゃべり入るのよ」といふ感じらしい。

そこで、この少年たちは目的に適切な遊びの訓練を受けて、ボーイスカウトの尊厳として、奉仕の精神を身につけるように教

育されるはずである。試みにボーイスカウトの隊員のパンフを開いてみたら「スカウトの三のちかい」の第二には「いつも他の人々を助けます」とあった。また「十二の

お守り」には「スカウトは礼儀正しい」「ス

カウトは親切である」の項目もある。

しかし、せっかくの青少年団体の教育や訓練が、その場限りの「しつけごっこ」に終わっているのはなぜか。戦後、学校と家庭を支

持する社会の期待は大きい。知育偏重の学校

かで制服を着たボーイ

スカウト（年少隊員）の仲間たちをよく見かける。野球帽に似た帽子をかぶつていて、わが子が常に煙を吸いつつ見るところをみると力

スカウト（年少隊員）の仲間たちである。「これが、この少年諸君は遠足に出かける

小学生たちと同じように行儀が悪い。先を歩みまつに乗車してきて、わが子が常に煙を吸いつつでも、席を譲るなどどこかおしゃべり入るのよ」といふ感じらしい。

そこで、この少年たちは目的に適切な遊びの訓練を受けて、ボーイスカウトの尊厳として、奉仕の精神を身につけるように教

育されるはずである。試みにボーイスカウトの隊員のパンフを開いてみたら「スカウトの三のちかい」の第二には「いつも他の人々を助けます」とあった。また「十二の

お守り」には「スカウトは礼儀正しい」「ス

カウトは親切である」の項目もある。

しかし、せっかくの青少年団体の教育や訓練が、その場限りの「しつけごっこ」に終わっているのはなぜか。戦後、学校と家庭を支

持する社会の期待は大きい。知育偏重の学校

かで制服を着たボーイ

スカウト（年少隊員）の仲間たちをよく見かける。野球帽に似た帽子をかぶつていて、わが子が常に煙を吸いつつ見るところをみると力

スカウト（年少隊員）の仲間たちである。「これが、この少年諸君は遠足に出かける

小学生たちと同じように行儀が悪い。先を歩みまつに乗車してきて、わが子が常に煙を吸いつつでも、席を譲るなどどこかおしゃべり入るのよ」といふ感じらしい。